

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	藤和 太	職名	准教授	学位	博士(医学) (九州大学 2005 年)
----	------	----	-----	----	----------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん 糖尿病 食生活習慣 遺伝子多型 疫学

研 究 課 題
1. 症例対照研究における DNA 修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 2. アルコール関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究 3. コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と 2 型糖尿病に関する分子疫学研究

担 当 授 業 科 目
公衆衛生学 I (前期) 公衆衛生学 II (後期) 公衆衛生学 (前期) 健康管理概論 (前期) 管理栄養士演習 I (前期) 管理栄養士演習 I (後期) 国際栄養論 (後期) 実践活動

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【公衆衛生学 I】</p> <p>聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気がつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【健康管理概論】</p> <p>スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【管理栄養士演習 I】</p> <p>国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【公衆衛生学 II】</p> <p>公衆衛生学 I では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、公衆衛生学 II の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。クラスルームの強みを生かして、配布資料を見やすくし、学生が常に見えるよう工夫した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
アジア太平洋がん予防学会	会員	2002年 10月～現在に至る
日本疫学会	代議員	2003年 1月～現在に至る
日本癌学会	会員	2003年 10月～現在に至る
日本がん疫学研究会	会員	2004年 8月～現在に至る
日本公衆衛生学会	会員	2010年 12月～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 健康管理概論 第3版 第8章	共著	2022年1月	講談社	栄養学NEXT シリーズ 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論 第3版 東あかね・久保加織 編
(学術論文) 1. Associations between peroxisome proliferator-activated receptor $\gamma$ (PPAR- $\gamma$ ) polymorphisms and serum lipids: two cross-sectional studies of community-dwelling adults.	共著	2020年8月	<i>Gene</i> .2020 Aug 2;145019.	① 日本多施設共同コホート研究における横断研究で、PPAR- $\gamma$ 多型 (rs1801282、rs3856806、rs12497191、rs1151999、およびrs1152003) と血清脂質との関連を検討したものである。今回は静岡地区のベースラインデータと第2次調査データを用いて検討した。結論として、rs3856806およびrs12497191多型は、脂質異常症及び高LDLコレステロール血症のリスク低下と関連している可能性があることが示された。 ② 共著者 Takashi Matsunaga, Mariko Naito, <u>Guang Yin</u> , 他12名 ③ 役割: データ収集、統計分析、論文作成、doi: 10.1016/j.gene.2020.145019.
2. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.	共著	2018年2月	<i>Gene</i> . 2018 5; 642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006年と2007の間で募集された35—69歳、4972人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた7つの選択されたSNPの連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相

## 2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	<i>Nutrients</i> . 2016 Sep 6; 8(9). pii: E545.	<p>相互作用が見られた。</p> <p>② 共著者 Seiki T, Naito M, <b>Guang Yin</b>, 他9名</p> <p>③ 役割：データ収集、統計分析、P172-177</p> <p>① 日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。② 共著者 Hinako Nanri, <b>Guang Yin</b>, 他16名</p> <p>③ 役割：データ収集、統計分析、P1-16</p>
4. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	<i>Nagoya J Med Sci</i> . 2016 May;78(2):183-93.	<p>① 日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究において、ALDH2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。</p> <p>② 共著者 <b>Guang Yin</b>, Mari ko Naitou, 他16名。</p> <p>③ 役割：論文作成、データ収集、統計分析 P183-193</p>

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳) 1. 医学部教科書 病気がみえる vol.1 消化器 病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2023年3月	Medic Media 名古屋大学	名古屋大学大学院医学系研究科医療行政学、モンゴル国立医科大学大学院研修所と協力し、日本の医学部教科書である「病気がみえる」シリーズをモンゴル語に翻訳する作業を行っている。2023年3月に vol.1 と vol.8 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
2. 医学部教科書 病気がみえる vol.4 呼吸器 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2022年3月	Medic Media 名古屋大学	2022年3月に vol.4 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
3. 医学部教科書 病気がみえる vol.10 産科 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2022年2月	Medic Media 名古屋大学	2022年2月に vol.10 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
4. 医学部教科書 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 モンゴル語・英語・日本語 語彙集	共著	2022年1月	Medic Media 名古屋大学	2022年2月に vol.3 のモンゴル語翻訳が終了し、印刷された。
(学会発表) 1. <i>PASS1</i> 遺伝子多型と肝機能異常との関連	共著	2022年1月	第32回疫学会総会(オンラインで開催)	① 対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究)大幸地区第2次調査に参加した35-69歳の男女2703名である。この研究では、 <i>PAPSS1</i> 遺伝子多型と肝機能異常との関連が示唆された。 ② 藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他11名 ② 第32回疫学会学術総会抄録集(P156)

2022年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. PAPS1遺伝子多型と空腹時血糖値との関連	共著	2021年1月	第31回疫学会総会(オンラインで開催)	<p>① 対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第2次調査に参加した35-69歳の男女2772名である。この研究では、PAPS1遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。</p> <p>② 藤和太(銀光)、内藤真理子、若井建志他11名</p> <p>③ 第31回疫学会学術総会抄録集(P126)</p>
3. カフェイン代謝酵素CYP1A2遺伝子多型、コーヒー摂取及び緑茶摂取と空腹時血糖値異常との関連	共著	2020年2月	第30回疫学会総会(京都大学百周年時計台記念館)	<p>① 対象者はJ-MICC Study (日本多施設共同コホート研究) 大幸地区第2次調査に参加した35-69歳の男女2695名である。この研究では、CYP1A2 rs2472304遺伝子多型と空腹時血糖値異常との関連が示唆された。</p> <p>② 銀光、細井菜穂子、内藤真理子、他11名</p> <p>③ 第30回疫学会学術総会抄録集(P146)</p>
				<p>教育研究業績総数 (2023年3月10日現在)</p> <p>著書 4 (内訳 単 1,共 3)</p> <p>学術論文 41 (内訳 単 0,共 41)</p> <p>学会発表 52 (内訳 単 0,共 52)</p> <p>翻訳 5冊 (内訳 単 0,共 5)</p>

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
アジア太平洋がん予防学会（現在に至る）	会員	2002年 10月～
日本疫学会（現在に至る）	代議員	2003年 1月～
日本癌学会（現在に至る）	会員	2003年 10月～
日本がん疫学研究会（現在に至る）	会員	2004年 8月～
日本公衆衛生学会（現在に至る）	会員	2010年 12月～

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
保健福祉学部研究所運営委員会 委員 2017年度～現在
予算委員会 委員 2020年度～現在
国際交流委員会 委員 2020年度～現在
栄養学科国試対策委員会 委員 2019年度～現在